

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット4階)

事業所番号	2799400011		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	大阪城東ケアセンターそよ風		
所在地	大阪府大阪市中央区森之宮中央2-5-3		
自己評価作成日	令和2年5月14日	評価結果市町村受理日	令和2年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護度が高くなり身体的対応が必要となった時でも、スタッフが利用者・家族様の思いを柔軟にくみ取り、会議にてスタッフ一同周知してイキイキとした暮らしを生活していける様に努力し、皆で考えを持ち寄り、医療を連携している所。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成19年2月に開設された当事業所は、理念にある「笑顔のある暮らしを大切に」の具現化に向けて、管理者・職員が一体となって利用者・家族に寄り添いながら、利用者一人ひとりのニーズに合ったケアを心がけ、日々の生活に潤いと安らぎが得られるよう取り組んでいる。併設のデイサービス・ショートステイの複合福祉施設(5階建て)の4・5階を居住空間とし、地域行事(夏祭り・敬老会・防災訓練)に積極的に参加し、保育園児の訪問や高校性の楽器演奏を受け入れ、食事の専門職員が地域の民生委員であるなど、地域との幅広い交流と連携が構築されている。協力医院や訪問看護師と常に連携を取りながら医療・健康管理を行い、開設以来多数の看取り経験があり、利用者・家族は安心と信頼を寄せている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア玄関に掲示して意識付けを行なっている。	職員全体で考えた「笑顔のある暮らしを大切に」の理念を、各ユニットフロアの目につく所に掲げ、日々使用する申し送りノートに添付している。グループホーム会議でも確認と共有を図りながら、ケアサービスに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老の日・防災訓練等地域行事に参加させていただき地域の方達と協力体制がとれるようにしている。	自治会に加入して回覧板で情報を得ると共に、地域行事(夏祭り・敬老会)や地域の防災訓練に参加している。ボランティア(傾聴・体操)、高校生の楽器演奏を受け入れ、ハロウィン・クリスマスのイベントに保育園児の訪問があり、幅広い地域との交流が根付いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中央区の認知症の話し合いにも参加し施設での現状をお伝えさせていただき、2か月に1度の運営推進会議を設けて、家族様からの認知症に関する質問を受け会議に出席された自治会の副会長様・民生委員・包括支援センターの職員・家族様と出席した職員とで話し合い理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当施設・各フロアの現状について報告している。家族様からの意見や質問にもお答えし後日返答が必要な課題に関しては再度話し合いを行いサービス向上につなげている。	奇数月の第4月曜日を定例開催日とし、運営推進会議構成メンバー参加の下、年6回実施している。(新型コロナウイルス感染防止の為、直近は中止している) 利用者・家族・地域代表者の多数の参加を得て、質問や意見・要望を受けてサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は即介護保険課の方へ問い合わせを行う。	区の保健福祉課の窓口や電話で、事業所の現状や取り組み内容を連絡し、情報・アドバイス・指導を受けて協働関係を築いている。介護相談員(月2回)やケースワーカーの訪問があり、実践現場の取り組み内容を把握してもらって連携を深めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを掲げており全体会議・GH会議にて研修を行い話し合いの機会を設けて理解を深められるようにしている。	身体拘束適正化指針文書を整備し、身体拘束適正化委員会（毎月事例を挙げて検討）や研修（年2回）を通して、職員は身体拘束の内容と弊害についての理解の深化に努めている。4・5階フロア出入り口は施錠しているが、利用者の要望や気配に応じて散歩に出かけ、閉塞感の解消を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様虐待に関しても全体会議・GH会議にて研修が開かれ防止に努めている。職員同士気づきの機会として普段のケアを思い返し虐待防止の意識をもてるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な制度を利用できるよう関係機関への相談を行い対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容について時間をとり説明をして不明な点が無いよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議開催時に利用者様にも出席して頂き意見をお聞きしている。家族様の意見や要望も聞き出せるようにしており苦情相談用紙を活用し匿名での相談をうけている。	利用者からは、意見・要望が出やすい散歩・入浴・買い物時の機会に聞き出している。頻度の差はあるが、家族の訪問は全員があり、訪問時や運営推進会議・家族会で要望・意見を聴いている。空気清浄器の設置要請を受けて実現した例がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議にて意見交換をしている。	管理者・リーダー・職員は日頃から意思疎通とコミュニケーションを図り、意見や気づきが出やすい環境を整えている。出された事案は即実行に移し、検討課題はグループホーム会議で話し合っている。年1回の管理者との面談で、職務体制の意見や相談を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力と実績を把握できるよう必要な時は個人面談を取り入れている。休みの配分やシフトの負担を考慮し合える環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実際の力量と現場の職務内容に差が olmayan 様に研修や講習に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区GHネットワーク会議への参加にて他の事業者と情報交換を行いサービス向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と初期の段階で困っていることをお聞きしサービスとの相違が無いようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望や不安な事柄を知る機会を設け安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を提供できるようヒアリングを行い必要なサービスを含めご案内している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに生活していることを実感できるよう、家事のお手伝いや、他利用者様同士の理解が深まるよう必要な介入を行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えていくチームとしての家族様の支援への参加をお願いしている。双方の努力がご利用者様の安心へとつながることで関係作りが可能である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所を尋ねる等して、疎遠にならない様にしている。	利用者の学生時代の友人、以前の住居近隣や馴染みの飲食店の知人、家族の訪問がある。家族同行で墓参りや外食に出かける人もいる。手紙のやり取りや電話の取り次ぎ等、今迄のつながりが途切れないよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の状況に配慮しながらお互いが関われるよう共同の作業や習慣作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了も経過をヒアリングできる関係作りをしている。必要な情報を提供できるように準備をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な範囲で利用者の意向に応じるようにしている。	入居時にまとめたフェイスシートを参考に、利用者・家族から何をしたいか、どのように暮らしたいかの把握に努めている。掴み取った情報は連絡帳・介護日誌に記入し、全体で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく暮らしていただけるように生活歴等の把握・職員間での共有を行う		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に必要な休息や時間をとれるように現状の把握を出来るよう観察しスタッフ間話し合いを行い情報共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の気持ちや思いを聞きそれをもとに関係者を含めた話し合い、相談を行い意見を聞いている。	毎月の会議でカンファレンスを行い、モニタリングは6ヶ月毎に実施している。計画作成前に利用者・家族の意見を聞き取り、往診ノート・看護ノート・介護日誌を参考に、短期(6ヶ月)長期(1年)の計画作成を行っている。新計画書は利用者には口頭で、家族には電話で内容の説明をしている。利用者の身体状態の変化時は、随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子がわかるようノートの活用をして記録にのこしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況を確認してニーズにこたえられるよう多種との連携・利用を行い柔軟に対応できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティアを活用して豊かな暮らしになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのある医療機関と連携して日々の暮らしを支えるようにしている。	かかりつけ医は利用者・家族の希望を優先しており、1名は従来からの医療機関を受診し、家族が同行している。協力医院の内科は月3回、歯科・皮膚科は週1回の往診を全員が受けている。訪問看護師による週1回の健康チェックがあり、適切な医療・健康管理を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の気づきが生きよう訪問看護師訪問時に相談できる関係をつくっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時家族様との連絡を強化し、早期退院に向けたプランの見直しを行い双方安心して退院できるようつとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けた話し合いを事前に行い個別の方針を反映できるようにしている。また状態の変化に伴う心情の変化に対するヒアリングを実施して方針の変更にも対応できるようにしている。	入居時に「看取り指針」を利用者・家族に説明し、同意書を交わしている。利用者の身体状態の変化時は、医師・事業所から現状を説明して、本人・家族の意向に沿った最善策を検討し、全体で方針を統一している。この1年間でも2名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の基本的な動き処置の振り返り研修を行い実践力を身に付けていけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	もしもの時に備えた訓練方法をお身に身につけられるよう地域お訓練にも参加をしている。	9月・4月の年2回（内1回は消防署立ち合い）、併設の事業所と合同で、夜間想定と自然災害対応の訓練を実施している。利用者全員と地域住民も訓練に参加し、協力体制が築かれている。緊急連絡網を整備し、水・カンパン・ラップ等の備蓄品を準備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重できるような声かけにつとめている。	マニュアルに沿った接遇研修を年1回実施し、人生の先輩として利用者の人格を尊重して、一人ひとりへの言葉かけや態度に留意している。プライバシー確保が必要なトイレ誘導・排泄介助に配慮し、居室入室時は声かけとノックを徹底している。個人情報に関する重要書類は適切に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して希望や思いを聞き出せるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を送れるように必要な支援を行うようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時の衣類の選択をして頂きおしゃれする楽しみが損なわれないようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲でお手伝いをして頂き食事の楽しみや大切さを感じられるようにしている。	業者から調達した食材を調理専門職員が調理し、職員は利用者と同じテーブルと一緒に食事をしている。毎食検食を行って検食簿に記入し、改善につなげている。テーブル拭き・下膳・洗い物等、簡単な作業を行っている利用者もいる。月1回は利用者の好みを取り入れて、食材購入や調理を楽しんでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の必要カロリー・水分を把握して食支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内環境の把握を行い、必要な時は歯科医に相談をしてアドバイスを頂き口腔ケアにつなげている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合った下着やオムツ類を選定し着用し排泄の様子状況と合わせて見直しを行っている。	日中は、オムツ使用者の4名以外は、布パンツ・リハビリパンツ、パッド使用と様々だが、トイレでの排泄支援を行っている。夜間はポータブルトイレを3名が使用し、睡眠を重視して、個々の状態に合わせてオムツ・パット交換をしている。オムツからリハビリパンツに改善した人(3名)もいる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として運動量の把握促しを行う。またマッサージ師の方のアドバイスを取り入れるときもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際体調に沿った入浴支援が出来るよう時間調整している。	入浴は原則週2回午前中としているが、柔軟に対応し、ゆず湯や入浴剤で季節を楽しむ支援をしている。入浴拒否の人には、タイミングや声かけを工夫したり、相性の良い職員と交代して入浴してもらっている。午後は、併設のデイサービスセンターの大浴場を利用して入浴支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の状態に合った活動をして頂き夜間の安眠につなげるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の把握に努め不明な点は看護師・医師に聞き理解できるようにしている。利用者様の体調や様子に変化があった際薬の副作用と照らし合わせ医師への相談を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が役割をもってメリハリのある生活をして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば家族様相談行い個別外出を行っている。日常的な外出として目の前のキューズモールでおやつを食べたり買い物を楽しんでいただいている。	日常の外出として、近所の公園や買い物を兼ねてショッピングモールへ出かけている。施設の屋上で外気浴・日光浴を行っている。家族同行で墓参りや外出に出かける人もいる。新型コロナウイルス禍の直近は、外出の機会が少なくなっている。	外出頻度が少なくなっているため、外に出る機会を多くとり、五感刺激や季節を感じ取れる外出によって気分転換を図ることを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭はお小遣い預かりをしており、必要な日用品・嗜好品を可能な方は一緒に買い物に行き選び購入できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を毎年御家族様へ送られる方の支援をしている。電話に関して生活の中でいつでもできるよう支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・フロアにお花を飾り季節を感じていたできるようにしている。	リビング壁面に、カレンダーや季節の手作り作品を飾り、家族から持ち込まれた生け花が、温かい家庭的な雰囲気を作っている。リビングの一面に畳敷きのスペースとソファを配置して、寛げる空間を作っている。空気清浄器を設置して、換気と温湿度管理に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの席を決めこまずにその時その時のニーズに添えるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく希望に沿った部屋になるよう配慮し使い慣れたものを置けるようにしている。居心地よく、安全な環境作りを行う。	ベッド・クローゼット・エアコン・カーテンが設置され、利用者は家族の写真やタンス・小物等の使い慣れた物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。居室掃除は職員が行い、安全確保の動線に配慮して、清潔で安心できる居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のADL・残存機能考えて必要なものがあれば福祉用具を利用して建物内で安心して自立した生活ができるよう支援している。		